

## ガン生存者の雇用状況は、複数の構成要素からなる支援プログラムによって向上する



情報あるいは教育訓練、カウンセリングあるいは対処能力に関するセッション、そして身体を動かす運動も組み込んだ介入は、ガン生存者の雇用に関するアウトカムを向上させるのに最善の方法である

### 本レビューの目的

このキャンベル・システムティック・レビューでは、ガン生存者の雇用に関するアウトカムに対する心理社会的介入の効果を報告している。本レビューでは、2151人のガン生存者を対象とする12の研究から得られた調査結果をまとめている。

心理社会的介入がガン生存者の雇用状況を改善するかもしれないという期待のもてるエビデンスがあるが、労働時間と病気休暇には影響を与えない。これらの介入は説明会と職業訓練ワークショップから、カウンセリングと理学療法に渡る。

### 本レビューの研究対象

雇用はガン生存者にとって重要な安定化要因である。2009年の研究によれば、ガン生存者の失業率は34%で、比較対象としての健康な人々と比べて2倍以上高い。

このキャンベル・レビューは、ガン生存者に対する心理社会的介入の効果を評価する。本レビューは、雇用状況、復職、常習的欠勤、病気休暇に使った時間といった雇用に関するアウトカムを向上させるための介入に焦点を当てる。

### レビューの対象となる研究

本レビューの対象となるのは、1980年から2013年にかけて公表された、ガン生存者の雇用に関する心理社会的介入の効果を測定する12の研究である。その研究のうち8つはランダム化比較試験であり、4つは疑似実験研究である。

病気の性質のために、ガン生存者は高齢であることが多い。大半の研究の参加者は50歳以上である。

### 本レビューの主要な調査結果

どのような種類の心理社会的介入が存在するのか？介入に含まれるのは、教育、訓練、心理社会的支援、環境への適応あるいは順応、融通の利く、あるいはワークシェアリング環境、あるいは就職活動と職業斡旋である。ほとんどの介入には、雇用に対する障壁に取り組むための複数の構成要素が含まれている。



### 本レビューにおける調査結果から得られる示唆

研究があまりに少なく、特定の実践を裏付ける際にエビデンスを与えることができないが、情報あるいは教育訓練、カウンセリングあるいは対処能力のセッション、そして身体の運動も組み込んだ介入は、ガン生存者の雇用に関するアウトカムを向上させるには最善の方法であるかもしれない。

さらなる研究では、雇用状況と、生活の質に関する自己申告のみではない基準についての情報を集める試験に焦点を当てるべきである。研究ではまた、介入の特徴と持続期間についてもさらに詳細に説明するべきである。

### 本レビューの最新度

本レビューの著者は2013年までに発表された研究を探した。このキャンベル・システマティック・レビューは2016年8月に発表された。

### キャンベル・コラボレーションとは

キャンベル・コラボレーションは、体系的なレビューを発表する、ボランティアによる非営利の国際研究組織である。我々は、社会科学と行動科学におけるプログラムに関するエビデンスを要約し、質を評価している。我々の目的は、人々がよりよい選択と政策決定を行うことを支援することである。

### このサマリーについて

このサマリーは、キャンベル・システマティック・レビュー2015年5号に掲載されたCarlton J. Fong, Kathleen Murphy, John D. Westbrook, Minda Markleによる体系的なレビュー、「ガン生存者の雇用アウトカムを促進するための行動、心理、教育、職業に関する介入」に基づき、Chui Hsia Yong (キャンベル・コラボレーション) により作成された (DOI: 10.4073/csr.2015.5)。Anne Mellbye (RBUP) が本サマリーを構想し、Howard Whiteにより編集されTanya Kristiansenより作成された (両者ともキャンベル・コラボレーション)。